

## 無

何もない・・・

恐らくはこの事が俺の心を暗鬱にする

その無の世界の中でただひとつ俺に聞こえるのは  
愛という滴がしたたる音なのだ

ぼつり

ぼつり

ぼつり

この無の暗黒の部屋の中に

その音は異様に大きく響いてくる

私の不安を増大し

増大した不安はまた、その音を増幅する  
次第次第に残響が大きくなる

ぼつり

ぼつり

ぼつり

ああ、たまらない

いっそのこと、完全な無にしてくれ

もう堪えられぬ、愛など御免だ

助けてくれ、ああ、聞こえる

ぼつり

ぼつり

ぼつり

これが慈悲の結果なのだ、ああ偽善者め

余計なことをしやがって、殺してやる

畜生、俺は自分で耳を潰す

(1982.5.30)